

前回の問題

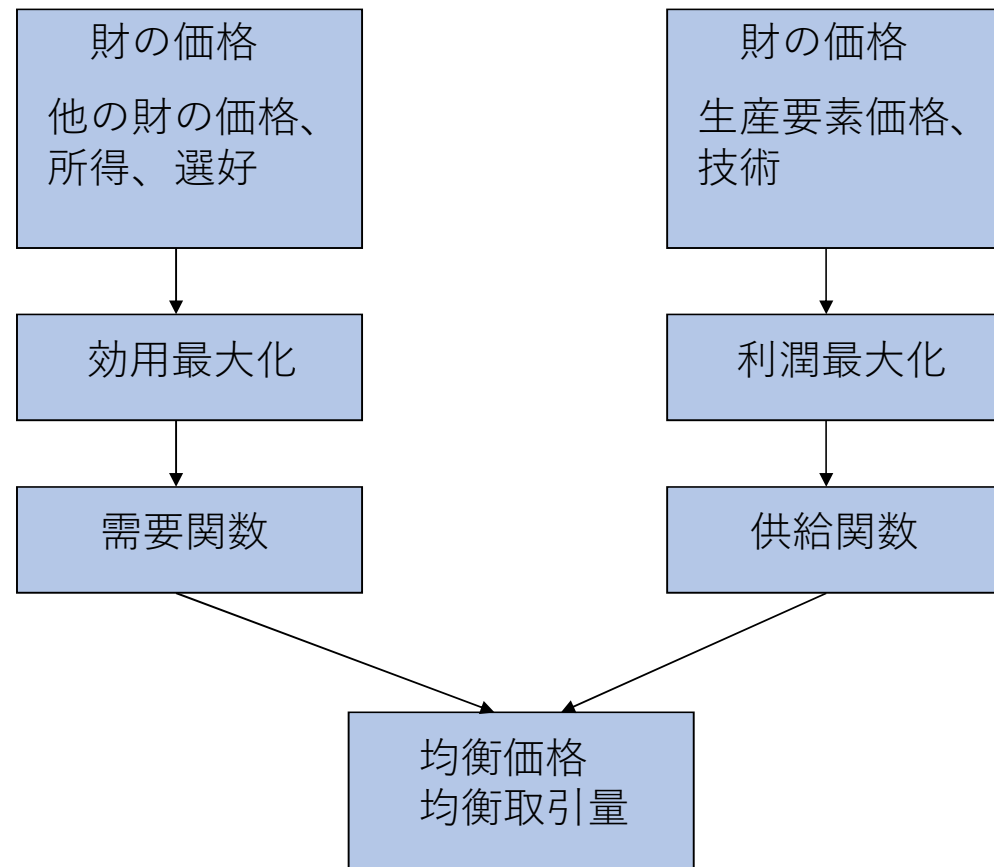
- 需要量は、価格以外の要因にも影響されます。部分均衡分析では、価格以外の要因は一定とさ、与件と呼ばれます。需要曲線において、一定と考えられている与件は、何でしょうか。また、供給曲線において、与件はどのようなもののでしょうか？

解答例

- 需要曲線
 - 他の財の価格、消費者の嗜好、所得
- 供給曲線
 - 企業の生産技術、雇用量

2.2 比較静学

部分均衡モデル



比較静学

- 比較静学 (Comparative statics):
 - 与件が変化したときに、変化前・変化後の均衡を比較する分析方法
 - 変化の途中は気にしない
- トイレットペーパー騒動
 - 石油ショックにより、トイレットペーパーの買いだめが起き、一時的にトイレットペーパー不足、価格の上昇が起きた

需要の変化

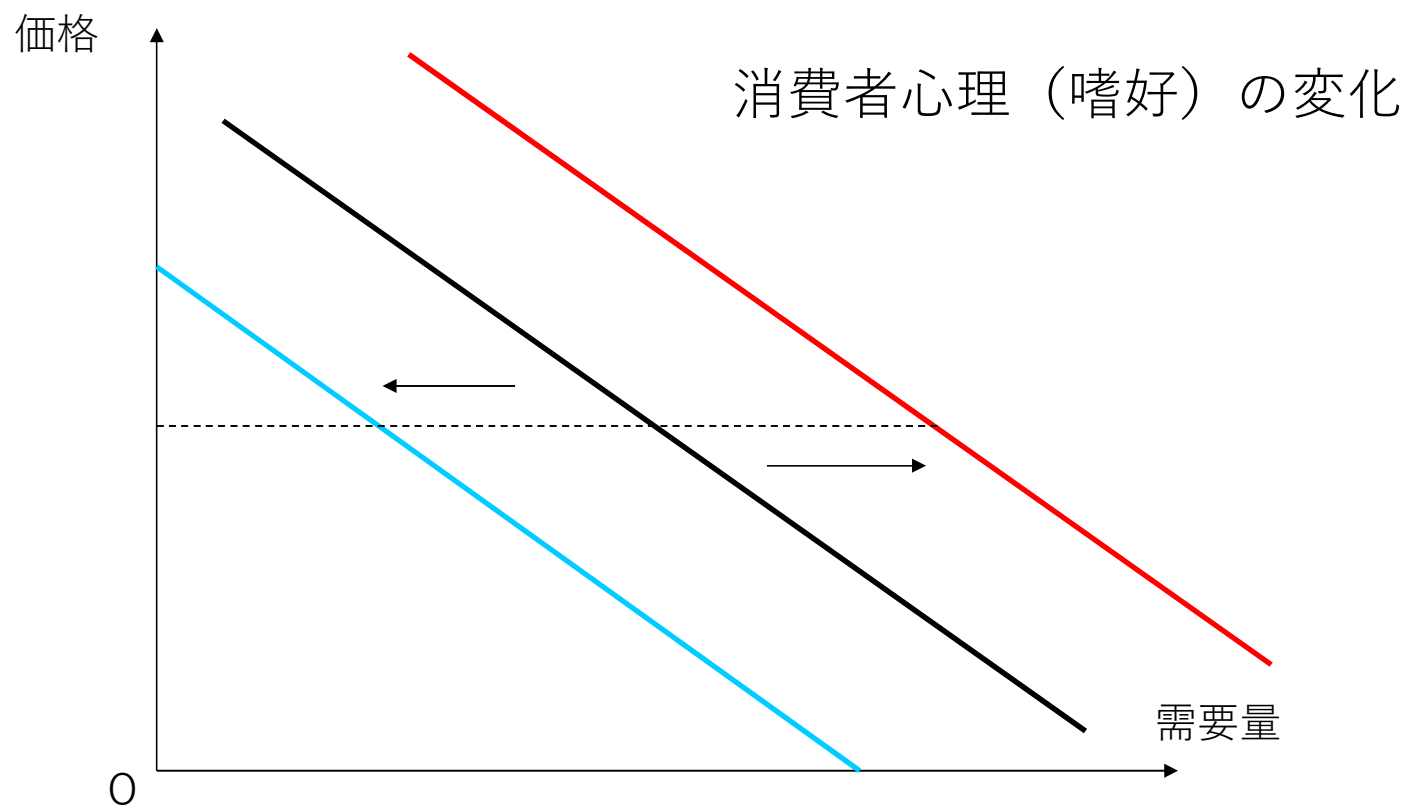
- 与件の変化

- 与件の変化 → 需要曲線のシフト
- → 供給曲線に沿った均衡の変化
- → 需要量、供給量、価格の変化

- 需要の変化

- 与件（他の事情）の変化による需要曲線のシフト

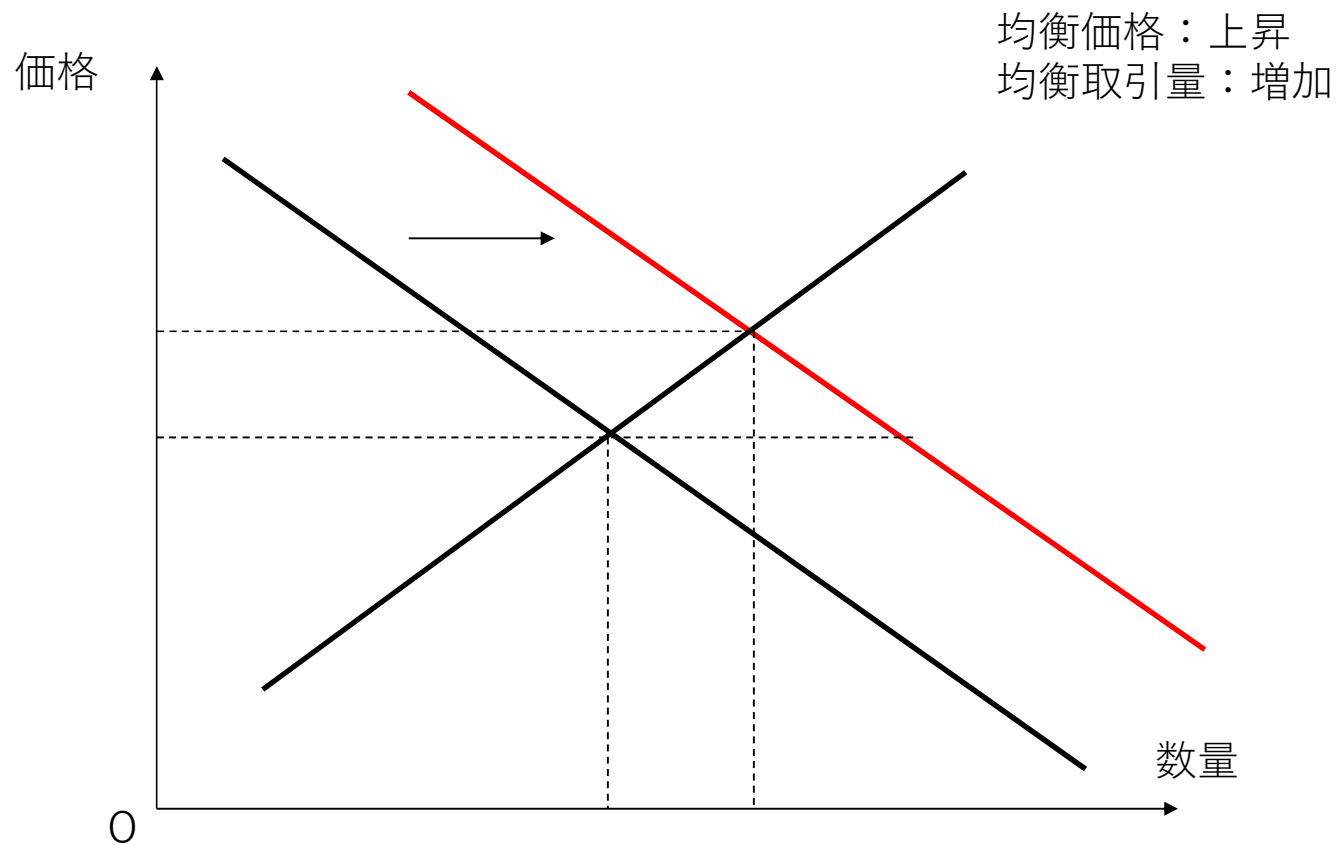
需要曲線のシフト



需要量の変化

- 超過需要
 - 需要曲線のシフト → 価格不変 → 需要量 > 供給量
 - 超過需要 = 需要量 - 供給量 = 品不足の量
- 価格の変化
 - 超過需要（品不足）の場合 → 価格の上昇
- 需要量の変化
 - 価格の上昇により、均衡が供給曲線に沿って変化
 - 需要量の変化 ≠ 需要の変化

均衡の変化



供給の変化

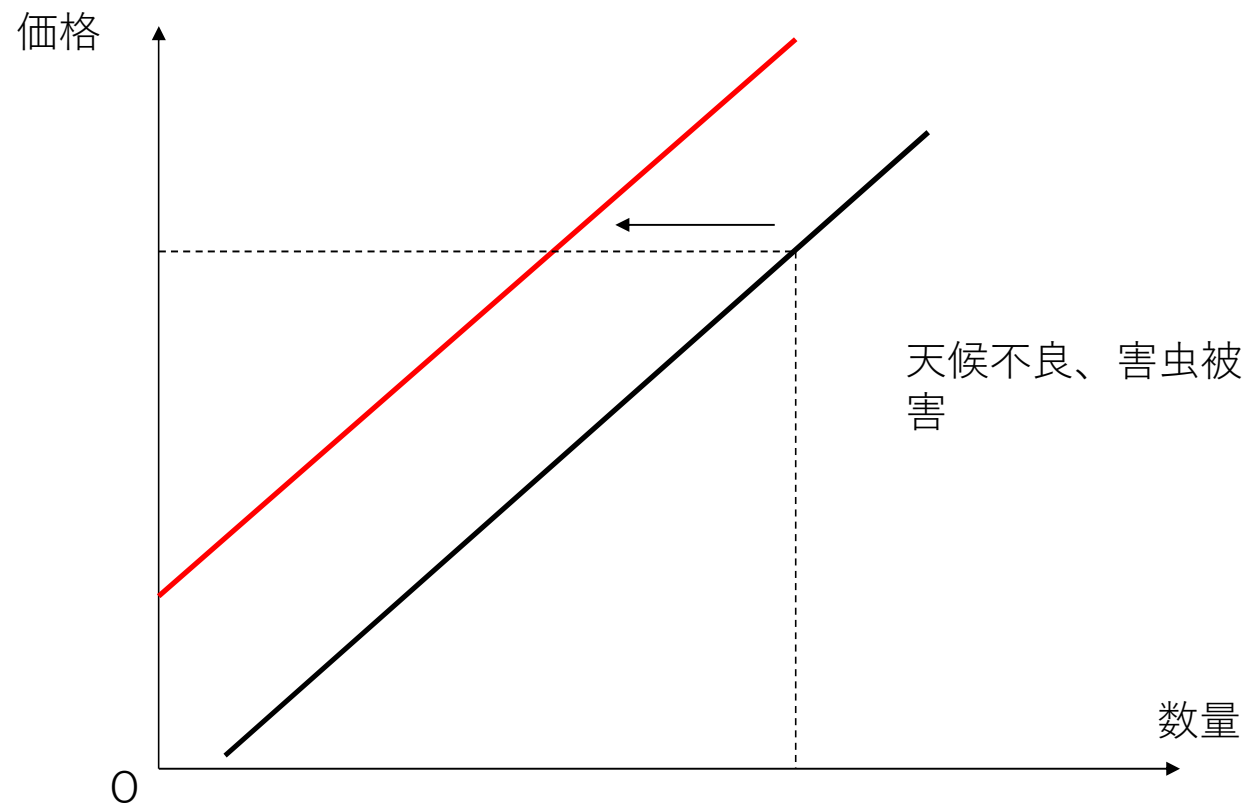
- 与件の変化

- 与件の変化 → 供給曲線のシフト
- → 需要曲線に沿った均衡の変化
- → 需要量、供給量、価格の変化

- 享保の飢饉（1732年）

- 天候不調と害虫の発生により、西日本で飢饉が発生。東日本から西日本へ大量のコメを輸送したが、その結果コメの価格が上昇し、打ちこわしなどが起こった。

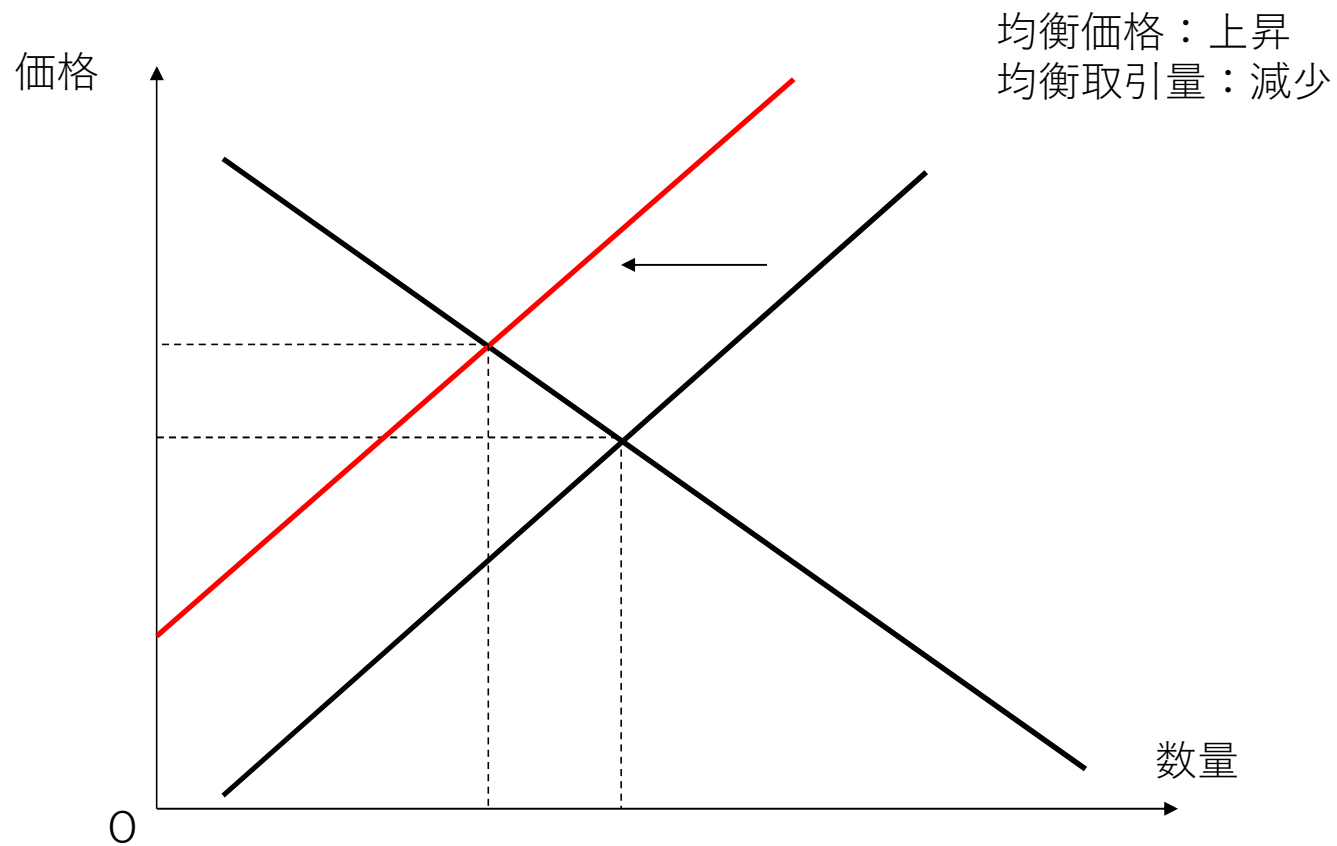
供給曲線のシフト



供給量の変化

- 超過需要
 - 供給曲線がシフト → 価格不変 → 需要量 > 供給量
 - 超過需要 = 需要量 - 供給量 = 品不足の量
- 価格の変化
 - 超過需要（品不足）の場合 → 価格の上昇
- 供給量の変化
 - 価格の上昇により、均衡が需要曲線に沿って変化
 - 供給量の変化 ≠ 供給の変化

均衡の変化



一物一価

- 裁定取引

- 値段の差を利用して利益を得ること
- 安く買って高く売る、利ザヤ稼ぎ
 - 紀伊国屋文左衛門

- 一物一価

- 同じ財は同じ価格で取引される
- 価格差 → 裁定取引 → 同じ価格
 - 低価格 → 裁定取引 → 需要増加 → 価格上昇
 - 高価格 → 裁定取引 → 供給増加 → 価格下落

2.3 均衡の安定性

ワルラスの調整過程

- ワルラスの調整過程は価格による調整
- 超過需要(Excess demand) :
 - 超過需要 = 需要量 - 供給量
 - 超過供給 = 供給量 - 需要量 = - 超過需要
 - 超過需要は価格に依存する
- ワルラス的調整過程 :
 - 超過需要 > 0 → 価格は上昇
 - 超過需要 < 0 (超過供給) → 価格は下落
 - 超過需要 $= 0$ → (均衡) 価格は不変

均衡価格のワルラス的安定性

- ワルラスの調整過程

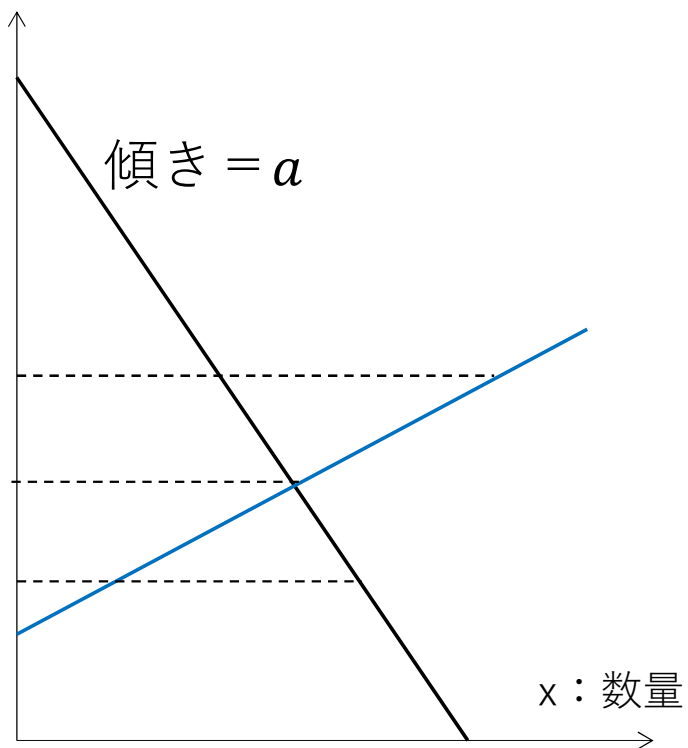
- $p_0 \rightarrow$ 超過需要 $\rightarrow p_1 \rightarrow$ 超過需要 $\rightarrow p_2$
- 価格が均衡価格に近づく $\rightarrow$ 安定
- 価格が均衡価格から遠ざかる $\rightarrow$ 不安定

- ワルラス的安定性の条件

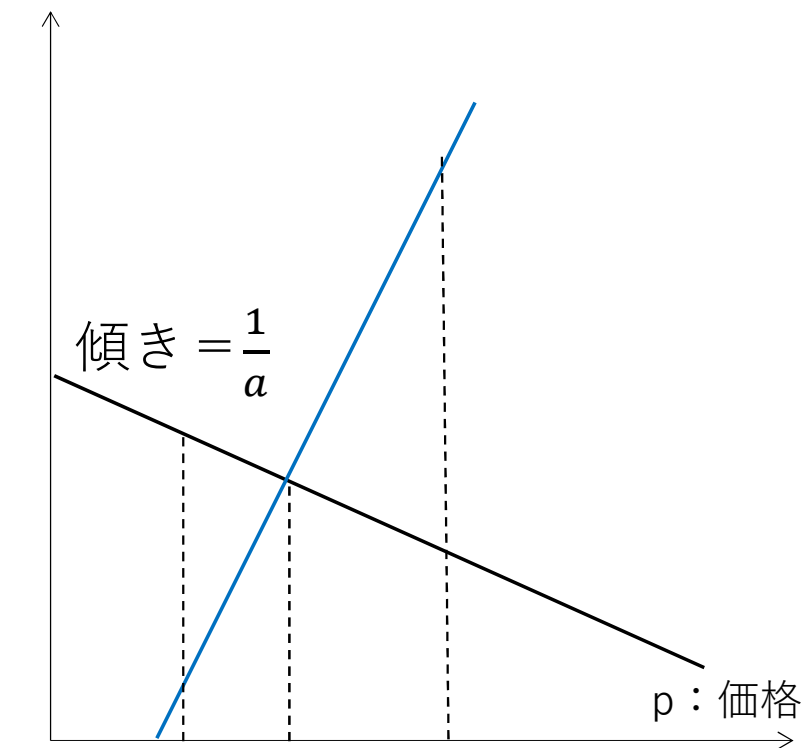
- 正の超過需要 $\rightarrow$ 価格が上昇
- したがって
- 価格 $<$ 均衡価格 $\rightarrow$ 正の超過需要
- 価格 $>$ 均衡価格 $\rightarrow$ 負の超過需要 (超過供給)

ワルラス的安定性

p : 価格



x : 数量



安定性の条件

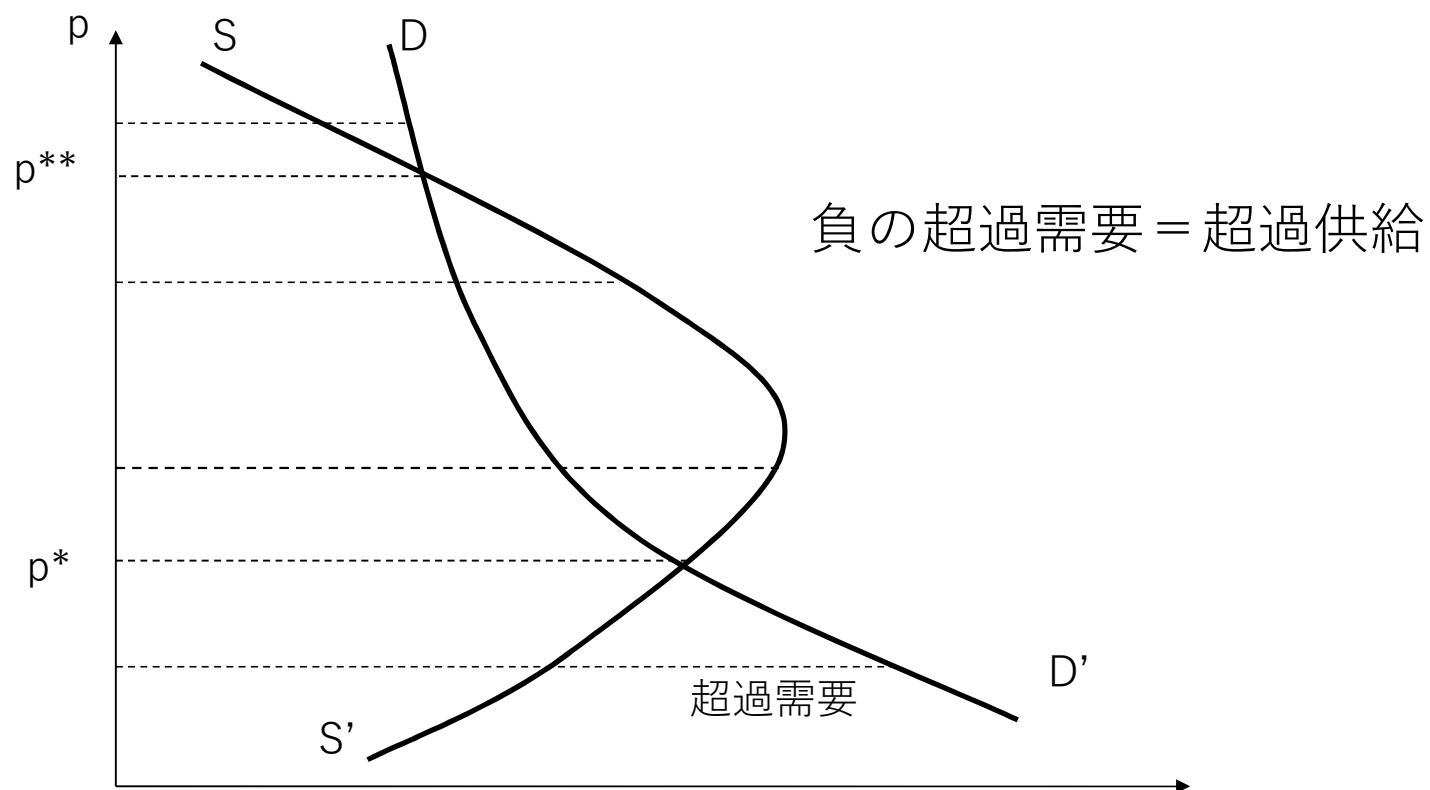
- ワルラス的安定性

- 価格 > 均衡価格 → 超過需要 (需要量 > 供給量)
- → 価格上昇
- 価格 < 均衡価格 → 超過供給 (需要量 < 供給量)
- → 価格下落

- 安定性の条件

$$\frac{1}{\text{供給曲線の傾き}} > \frac{1}{\text{需要曲線の傾き}}$$

ワルラス的調整過程



今日の問題